

令和7年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立万石浦中学校

教諭 佐藤 大樹

1. はじめに

本単元は中学校学習指導要領公民的分野 B「私たちと経済（2）国民の生活と政府の役割 ア（イ）及び、イ（イ）」に該当する。

経済主体の一つに数えられる「政府」は、家計や企業のみでは補いきれない諸問題へ対処するため、独自の役割を持ち、経済活動を行っている。財政の意義や必要性についての理解を深めた上で、現代社会に生じる様々な課題と関連付けながら、これからの財政のあり方について考察できる点に、本単元を学ぶ価値があると考えます。

小学校では、おおまかな税金の種類や用途について学習している。また地理分野の学習では、貿易の自由化を目指して関税を減らす、地域ごとの枠組みが結成されていることや、日本や世界の GDP とその推移などについて学んでいる。更に歴史分野の学習では、古代や近現代の日本の社会における税の種類や、過度な税負担への苦しさから起こる社会運動などについて学んでいる。

本時の指導では、財政を行う上で、政府の収入源となっている税金に焦点を当てながら、税の種類への視野を広げながら、税は誰がどのような割合で負担し、どんなことに用いられるべきかを考えさせたり、他者との意見交換から理解を深めさせたりしたい。

2. 生徒の実態（3学年2組 男子14名、女子13名、計27名）

どのような学習活動にも、前向きに一生懸命取り組むことのできる集団である。しかし、社会的な事象に対する基礎的な知識や多面的・多角的に考察する力は乏しい。税についての既習事項も含めたアンケートを実施したところ、以下のような結果が得られた（2名欠席）。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
社会の学習は好きですか	8	12	3	2
公民の学習は好きですか	6	10	6	3
「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒の主な理由 ・・・・「自分の生活と関係していると思う」、「友達の色んな考えを聞けるから」 …など 「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた生徒の主な理由 ・・・・「覚えることが多い」、「公民は言葉が難しいと感じる」 …など				
知っている税金の種類を答えなさい	消費税（18人）、所得税（12人）、住民税（6人）、独身税（5人）たばこ税・酒税・ <u>分からない</u> （3人）、関税・ガソリン税・自動車税（2人）、相続税・固定資産税・宿泊税・法人税（1人）			
税金はどのように使われているのか答えなさい	公務員の給料（13人）、 <u>分からない</u> （8人）、学校などの公共施設の管理及び運営費（教科書など含む）（7人）、医療などの社会保障費（6人）、外国への支援費（5人）、道路などのインフラ整備費（4人）、被災地支援費（1人）			
今後日本の税金は増やすべきか、減らすべきか	増やすべき（0人） ・ 減らすべき（23人） ・ 今と同じ（2人） 【主な理由】 現状でさえ生活が苦しいのにこれ以上税率を上げてほしくない（複数）、稼いでいる人から多くとるのはどうなのか、ニュース等で無駄に使われているという報道がある、自分で自由に使えるお金が少なくなるから …など			

アンケートの結果から、日常生活と結びつきやすい「消費税」や「所得税」などについての知識がある生徒は、半数以上いることが分かった。しかし、税金の使い道を知っている生徒や、税率について自分なりの根拠とともに、どう変えるべきかを答えられる生徒は少なく、半分ほどの生徒は、「なんとなく

高いから」といった曖昧な理由で、「税率を下げるべきだ」と答えていた。

本単元の学習を通して、日常生活の中で私たちに関わっている税に多く触れ、税についての知識を増やすとともに、税金の用途についても丁寧に確認したい。また、近い将来親元を離れ、自立して生活することに留意させ、税の負担者や妥当性、税金が担う役割等についての意見を、自分なりの根拠とともに、表現する力を養いたい。

3. 単元の目標

(1) 知識及び技能

財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。

(2) 思考力、判断力、表現力

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。

(3) 学びに向かう力、人間性等

国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4. 指導計画（本時 1 / 4）

節・小単元	学習内容	学習目標	評価規準
1 私たちの生活と財政	・財政 ・税金 ・累進課税	効率と公正の観点から、税金の負担者や妥当性について考察する。	税金の役割や負担率について考察し、今後の自身の生活と結びつけながら、望ましい税のあり方について表現している。(思・判・表)
2 財政の役割と課題	・社会資本 ・公共サービス ・公債	身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。	公共サービスは、どこがどのように提供しているか、本文から読み取る学習を通して、理解している。(知・技)
3 社会保障の仕組み	・社会保障	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解している。	私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。(知・技)
4 少子高齢化と財政	・介護保険制度	少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を、増税の影響に着目して考察し、表現している。	社会保障制度の充実と経済成長との両立が難しい理由を増税の影響に着目して考察している。(思・判・表)

5. 本時の指導

(1) 題材名 「私たちの生活と財政」

(2) 本時の学習目標

効率と公正の観点から、税金の負担者や妥当性について、根拠を明確にして、自分の意見を表現しよう。(思考・判断・表現)

(3) 本時の評価

	満足できる (A)	努力を要する生徒への手立て (C)
【思考・判断・表現】	税金の役割や負担率について、現代の日本の社会の状況を踏まえて深く考察し、今後の自身の生活と結びつけながら、望ましい税のあり方について表現している。	自身の生活と直結する具体的な例を示して、改めて税について考えようとするきっかけづくりを行う。また、協同学習を通して、意見の活発な交流を図り、考えの幅を広げさせる。

(4) 本時の指導

段階	学習内容 ○主な発問・指示 ◇予想される生徒の反応	形態	・教師の支援・留意点	評価の観点
導入 7分	1 提示された2つの資料の共通点を考える。 ○「資料1、資料2は何を表したもの？」 ○「この2つの資料の共通点は？」 ◇税に関係している？ ◇え、何だろう…？	全体	・奈良時代の戸籍の資料とフランス革命の風刺画の資料の2つを提示し、ヒントを与えながら生徒から言葉を引き出す。	
展開 33分	2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">目標 税の「これから」について自分なりの意見をもとう</div> 3 税の種類や税金の使い道を確認する。 ○「私たちが支払う税は何種類あるかな？」 ◇消費税、住民税、自動車税、所得税、…など ○「みんなから出た税の種類を直接税と間接税、地方税と国税に分類してみよう！」 ○「こうしてみんなから集めているお金はどのように使われているかを、教科書p.164の資料で確認しよう。」 4 事前アンケートの結果をもとに、課題について考える。 ◇「授業をする前に書いて	全体 個人 ↓ グループ 個人 ↓ 選択	・生徒の発言をもとに確認していく。 ・誰が誰に払っているのか、という視点のもとで、直接税と間接税の分類、最終的にどこに行き着くのかという視点で、国税、地方税に分類させる。 ・理由も含めて、個人で考えさせる時間を確保したのち、共有させる。 ・机間巡視をして、余裕のある生徒には、もし税金がなくなったら誰がどのように困るかを考えさせる。 ・「税金を増やすべきか、減らすべきか」という事前アンケートの全体結果を提示し、集団の意見と個人の意見を比較させる。	・ワークシートの記述【思・判・表】

	<p>もらったアンケートの結果を出すので、自分の考えと比べてみよう！」</p> <p>◇「これから3つの課題を出します。自分のできそうなものから、根拠も踏まえて取り組んでください。考えるためのキーワードは効率と公正です。」</p>		<p>また、税率についての世論も提示し、更に考えを広げさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの課題を提示し、自分ができそうなものから取り組ませるようにする。 ・個人で考える時間を確保した後、自由に席を移動して級友と取り組んでもよいこととする。 ・机間巡視をしながら、教科書の資料と現代の日本の社会の様子を結び付けて考えるよう声を掛け、自分事として捉えさせる。 	
--	---	--	--	--

課題①：税金は誰がどのぐらい支払ったらよいですか。

課題②：今後、日本の税率は上げるべきですか。下げるべきですか。

課題③：私たちが幸せに生活するために、税金はどのようなことに使われるべきですか。

<p>終結 10分</p>	<p>6 代表生徒の考えを聞く。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>全体</p> <p>個人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的に指名し、それぞれ1つずつ、考えたことを発表させる。 ・意見交換で得た成果をもとに、自身の考えを再びまとめさせる。 ・本時の学びを自身の言葉で整理させ、基礎的・基本的知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述【思・判・表】
-------------------	---	---------------------	--	---

6. 本時の振り返り（生徒）

- ・授業を通して、税について考えることは難しいことが分かった。自分たちの生活を1番に考えたときに、税を払うことの大変さと税を払っているから便利になっている部分とがあり、どうすることがいい選択なのかをずっと考えた。
- ・私たちが納得できるような税の使い方になっているかとそれが私たちに示されているか次第かなと思った。そうであれば、税金がある程度高いとしても、誰も文句は言わないと思う。
- ・今まで気づかなかったところにも、税がかかっていることが分かった。

7. 成果と課題

【成果】

①税についての興味・関心づくり

授業をしていて、生徒の反応や感想から積極性を感じることができた。やはり、「お金」という日常的に目に触れやすい、生徒にとって身近な題材であることが知的好奇心を高めた要因であったと考える。ねらいとしていた、「税の知識を増やすこと」については、概ね達成できたと感じた。また、協同学習を通して、級友の意見や考えと自身の意見を比較したり、活発に議論を交わしたりする姿がたくさん見られた。

【課題】

①導入が展開に生かしきれなかった

本時の導入時に歴史分野で学習した、奈良時代の戸籍の資料とフランス革命の資料を提示した。ねらいとしては、「経済の勉強なのに、歴史？」という、生徒の意表を突くことで、授業への興味付けを行うことであった。そして、展開での机間指導の際に、「国民が税に対して意見がある場合に、反乱を起こしたり、逃避したりと抵抗する姿勢を見せていたが、私たちにはどのようなアクションができるか」という補助発問を投げかけることで、考えを深めるつもりであった。また、「公民」に固執せず、分野横断的な仕掛けづくりの意図もあった。実際の授業をしてみて、学力の高い生徒には効果的であったが、下位層の生徒は理解が追い付かないまま、展開に入ってしまった。

②“税の授業”に至るまでの深まりの薄さ

今回この資料を作成する上で、年間指導計画の指導する順番から変更をかけ、公民分野に入ってからすぐに税の授業を行った。税に関する単元は、経済分野の中でも最後の方に位置しており、本来であれば、日本国憲法、政治、経済のうごきを学習してから、行うものである。前倒しで行った分、こちらの想定した、授業内での発言や課題に対しての考えの深まりには、至った生徒は少なかった。

8. おわりに

今回の授業づくりや分析を踏まえて、生徒一人一人が、税に対する自分なりの意見や考えをしっかりと持ち、それをアップデートさせるため、教員は絶えず研修を重ね、指導力に磨きをかけることが必要だと強く感じた。税の全てを理解することは容易なことではないが、必要な情報や知識を自分で集め、処理していく力は、中学生のうちに身に付けさせなくてはならないと感じる。そして、これから自立して生活していく上で、時代の流れや世の中の動きと関連付けながら、自分自身の考えを改めていく力が求められると感じる。これらの力を身に付けさせるために、私たち教員が積極的に例を示して、根拠をもとにした、自分なりの意見を説明する姿を見せるべきではないかと思う。そこには、自分だけの一方的な視点だけではなく、社会科が目指している「多面的・多角的な見方」に留意しながら、正しく最新の情報や知識を伝え、考えを深めさせなくてはならないと思う。今回の授業づくりや分析で生徒たちに十分に伝わったかというとまだまだ足りないと感じるが、私自身が“税の授業”を作る上でこれから大切にしていきたいことを見出すことができた。